

STANDARD
6912

2022年3月期 決算説明資料

菊水電子工業株式会社
www.kikusui.co.jp



目次

会社紹介

P3～

2022年3月期 連結業績概要

P13～

2023年3月期 連結業績予想

P24～

会社紹介

会社紹介

● 会社概要 (2022年3月末現在)

社名(銘柄コード)	菊水電子工業株式会社(6912)	
設立	1951年(昭和26年)8月8日	
資本金	22億125万円(3月決算)	
発行済株式数	9,900,000株(1単元株数100株)	
事業内容	各種電子計測器・産業用電源装置・ ソフトウェアの設計、製造、販売及び輸出入	
大株主 (自己株式は含まず)	株式会社ケーティーエム	10.90%
	菊水取引先持株会	10.11%
	菊水電子工業従業員持株会	4.54%
	株式会社みずほ銀行	4.32%
	小林寛子	4.16%
	日本生命保険相互会社	3.61%
	アジア電子工業株式会社	3.48%
	ケル株式会社	2.64%
	株式会社三菱UFJ銀行	2.57%
	橋本幸雄	2.25%
代表者	代表取締役社長 小林一夫	
従業員数 (当社グループ)	317名(2022年3月末現在) []は前年比増減	
	研究開発:	91名 [± 0]
	生産・購買:	86名 [+ 1]
	営業:	112名 [+ 1]
	管理:	28名 [- 5]

会社紹介

● 国内外拠点・関連子会社



●は海外代理店

国内拠点

本社

菊水創発センター(開発拠点)

富士勝山事業所(製造拠点)

営業所: 横浜、仙台、さいたま、名古屋、吹田、福岡(出張所)

関連子会社

菊水貿易(上海)有限公司(中国 上海市)
2006年6月設立 連結 出資比率:100%

KIKUSUI AMERICA, INC. (米国カリフォルニア州トーランス市)
2004年10月設立 連結 出資比率:100%

フジテック株式会社(山梨県南都留郡富士河口湖町)
1986年6月設立 連結 出資比率:100%

会社紹介

沿革

1951
昭和26年

株式会社菊水電波設立
8月8日、東京町大田区溝込にて資本金300万円、資本金：従業員を以て主要製品はラジオ用ダイヤル

創業者 小林 証 (当時の写真、31歳)
初期のダイヤル
初期の建物

創業メンバー 小林正樹 (相談役)、小林 証 (創業者)、尾崎隆造 (副社長)、高田正徳 (取締役)、一柳敏彦、広瀬 舞ら

1957
昭和32年

ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ
計測器がダイヤルの売上を上回る
OEMのトランジスタラジオも生産

低周波デカイド発振器
ORC-39A
社独自のデカイド方式
なかなか便利な製品であった

ロングウェーブラジオ
TR-604
OEM供給していた
トランジスタラジオ

1961-62
昭和36～37年

菊水電子工業株式会社
へ社名を変更
半導体14年連続生産実績
計測器による目的達成

ダイオード・コンデンサー 507A
高周波用大出力高周波コンデンサー
コンデンサー100個生産
計測器の生産に力を入れた

計測器設計 PA-107
一機多用の計測器として
10000個生産した
10000台生産

通川工場の新築

1971-74
昭和46～49年

創立20周年
第一次創業の年
名古屋、静岡に営業所開設
電子計測器の輸入

1966-68
昭和41～43年

第一次創業の年
創立15周年
1966年10月、1967年7月、1968年2月、1968年10月、1969年1月、1969年7月の計測器をとり、新設工場は完成

計測器の生産
計測器の生産
計測器の生産

1981-82
昭和56～57年

米空軍との大型商談
オシロ 7160台 (23億円)
オシロの開発として世界最大の取引
北米米空軍所所属

計測器で米軍の一番札
毎日新聞
27日付の
初の
一冊で報じる毎日新聞 (1982)

1985-88
昭和60～63年

オシロスコープCOM3000シリーズ
グッドデザイン産業機械部門大賞を受賞
オランダに「菊水ヨーロッパ」を設立
英国マルコーニ・インスツルメンツ社と
日本総代理店契約締結

計測器業界初の快挙！
グッドデザイン産業機械部門
大賞を受賞した
オシロスコープ
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ
営業が歩かずとも広告だけで
どんだん注文が舞い込んだヒット製品

1989-91
平成元～3年

株式店頭公開
西東京営業所 開設
群馬物流会社
ケイアールシー株式会社設立

1991年11月
株式を店頭市場に新規公開
公開による前株式発行数：75万株
発行価格：2,330円/1株

1989年6月
21日閉
西東京営業所
開設

株式公開の頃の日本社 (川崎市中原区)
平成3月期 売上高112億、従業員数386名であった

2000-01
平成12～13年

ISO14001認証取得
ダブル認証による製造業の中
心企業に選ばれる (ISO9001)
4M&D2001 製造業のスタンダード

2001年発足の4M&Dがグッドデザイン賞を受賞！

GOOD DESIGN
AWARD 2001

大賞受賞
計測器部門
1550001

大賞受賞
計測器部門
1550001

1995
平成7年

ISO9001認証取得
計測器部門
全国営業活動を開始

1995年12月22日
品質マネジメントシステム
ISO9001認証を取得
登録証番号:JQA-1100

●ホームページ開設
●全国営業活動開始
●海外出張対応オープン
●計測器の生産
●計測器の生産

会社紹介

沿革

2002 平成14年
上海に駐在員事務所開設
中国でのサポート体制拡充へ
順列EDI（電子取引システム）
（Ship）稼働開始

2005 平成17年
燃料電池評価技術に関する技術協力を
中国科学院大連化学物理研究所
（DICP）と締結
HD OCVの測計技術について
パルスタック工業との協業を発表

2006 平成18年
創立55周年を記念して
祝賀会・洋上パーティを開催

2009 平成21年
旧テックシオ社より
エアロフレックス社管アビオニクス製品の
日本販売代理店権を継承
中国圏での合弁化

2011 平成23年
コーポレートサイトの
デザイン（日本語ページ）を
全面リニューアル

2012 平成24年
EV自動車レース協賛
（JEVRA、バイクEVチャレンジ）
北関東営業所稼働











2013 平成25年
電力中央研究所
PCR（パワーコンディショナ）電圧制御技術
大数電力変動PCR1000LEを納入
Amazon販売開始

2014-15 平成26～27年
直流電源PMX-Aシリーズ
マスコットキャラクター Pobby
開発開始（上海）有限会社を移転

2016-18 平成28～30年
ソリューション製品サイト
KIKUSUI magを開設
株式会社マング（ハイカワ）公開
株式会社高野（高野（シツク））に協賛
目標センター「高野センター」に移転

会社紹介

● 事業活動トピックス

<新製品>		<イベント>
<ul style="list-style-type: none"> ・PCR-LE、PWXラインアップ追加 ・Milla-E20（電気自動車(EV)急速充電器） 		2012 <ul style="list-style-type: none"> ・東海営業所 新社屋竣工
<ul style="list-style-type: none"> ・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器) ・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充 		2013
<ul style="list-style-type: none"> ・TOS7210S(PID絶縁試験器) ・TOS5200(耐電圧試験器) 		2014
<ul style="list-style-type: none"> ・PMX-Aシリーズ(小型直流電源) 		2015
<ul style="list-style-type: none"> ・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷) 		2016 <ul style="list-style-type: none"> ・富士勝山事業所にデモルーム開設 ・Webサイト「KIKUSUI mag」開設
<ul style="list-style-type: none"> ・PWR-01シリーズ(直流電源) 		2017 <ul style="list-style-type: none"> ・本社を横浜市都筑区茅ヶ崎中央へ移転
<ul style="list-style-type: none"> ・PCR-WE/WE2シリーズ(交流電源) 		2018 <ul style="list-style-type: none"> ・菊水創発センター リノベーション工事完了 ・KIKUSUI AMERICA, INC. トーランス市に移転
<ul style="list-style-type: none"> ・TOS9300シリーズ(電気安全規格試験マルチアナライザ) 		2019 <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ デュッセルドルフに駐在員事務所を開設
<ul style="list-style-type: none"> ・PAN-Eシリーズ(直流電源) 		2020
<ul style="list-style-type: none"> ・PCR-WEA/WEA2シリーズ(交流電源) ・PCJシリーズ(交流電源) ・TOS9300 ラインアップ追加 		2021 <ul style="list-style-type: none"> ・菊水貿易(上海)有限公司 北京分公司を開設 ・創立70周年記念 昭和レトロ計測器Bluetoothウエブスピーカー3機種発売

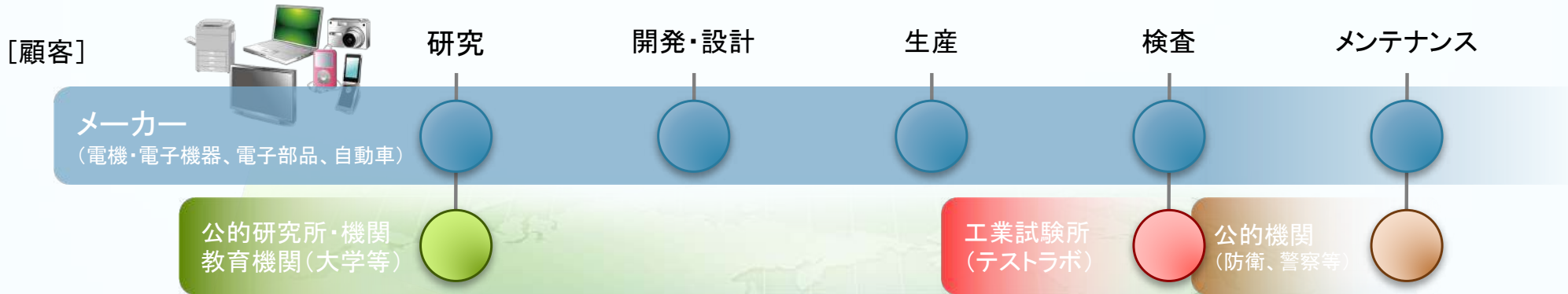
会社紹介

● ビジネスモデル

当社の独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)



グローバルに販売展開！

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、自動車のノイズ耐性(EMC)に関する試験、またEV用バッテリーの絶縁性能試験の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器



EMC試験器



電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、宇宙産業・電子部品市場での評価試験や製造設備用として直流電源、ハイブリッドカー・電気自動車の評価に必須となる電子負荷装置(電力を消費する装置)、パワーコンディショナーなどの評価に必要な交流電源の需要が高まっています。

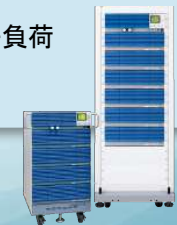
直流電源



交流電源

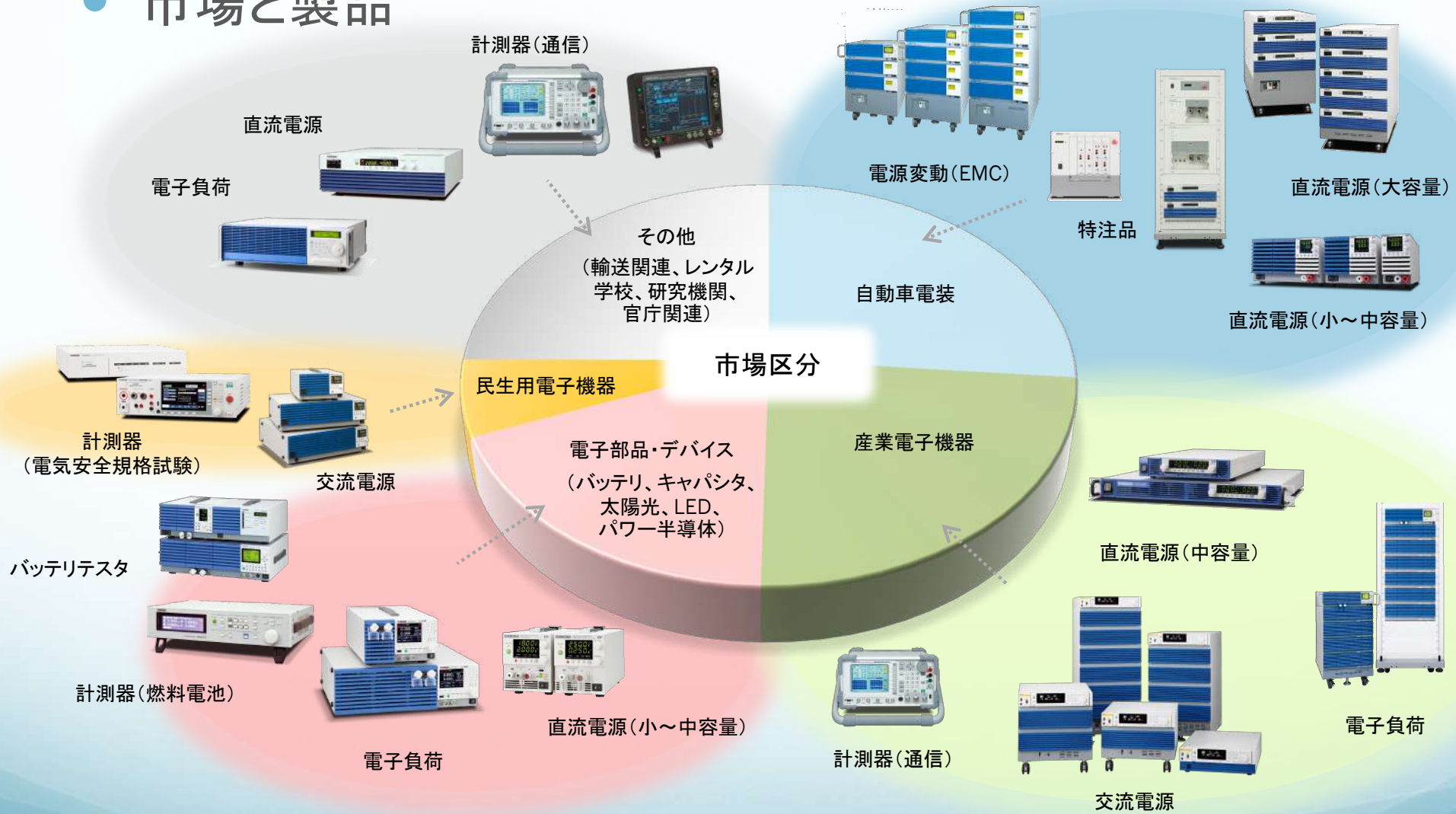


電子負荷



会社紹介

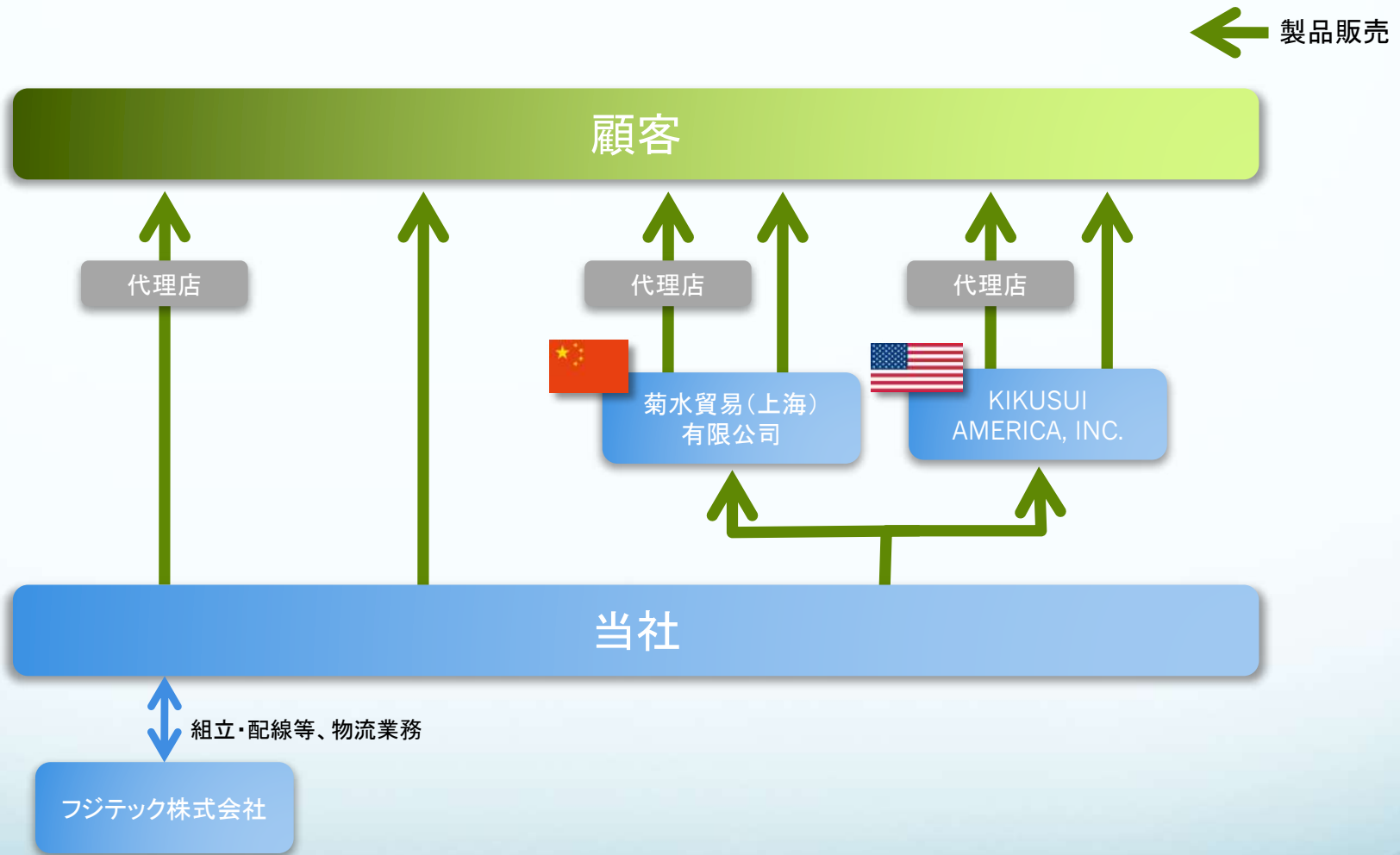
● 市場と製品



(2022年3月期実績による)

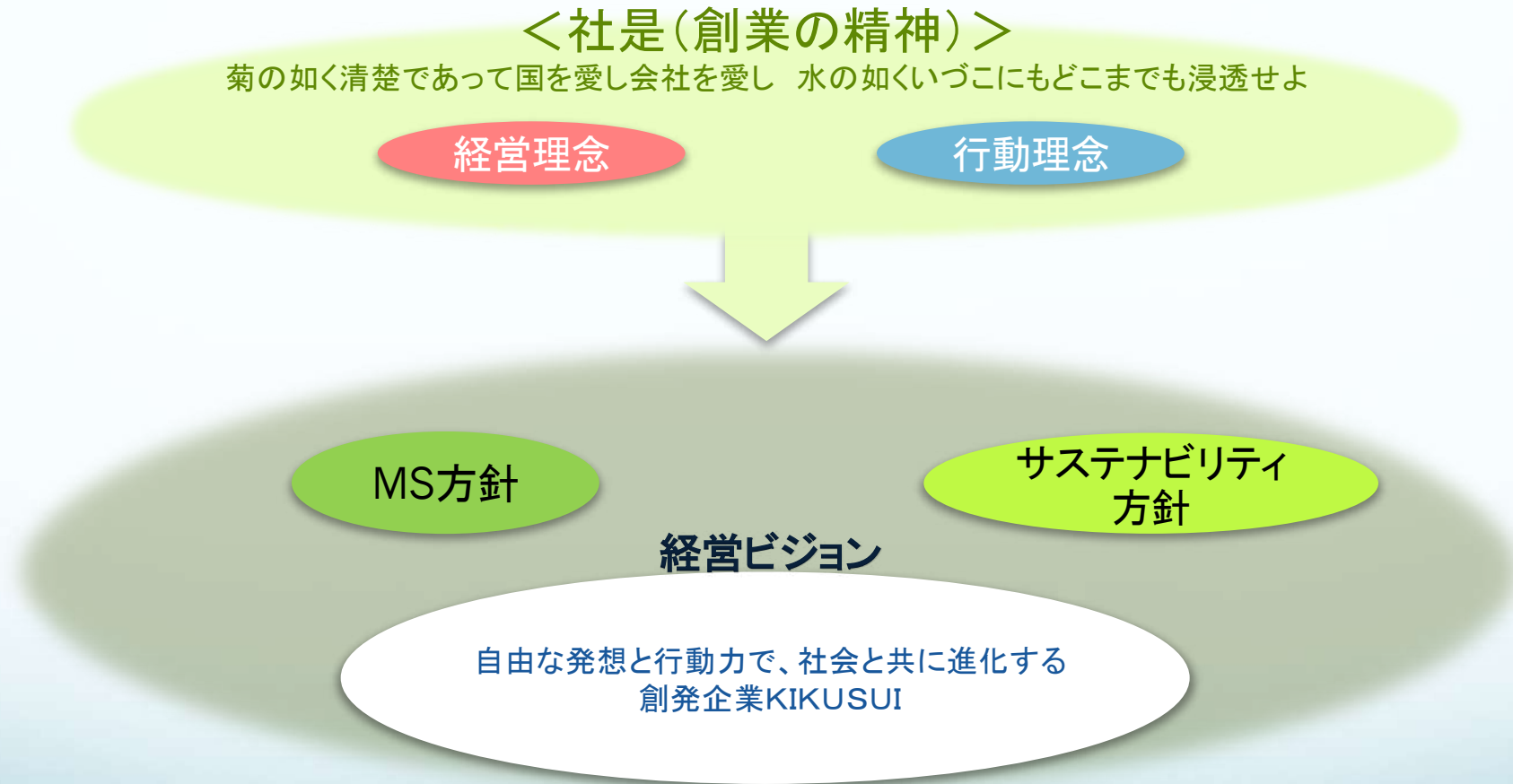
会社紹介

- 事業系統図



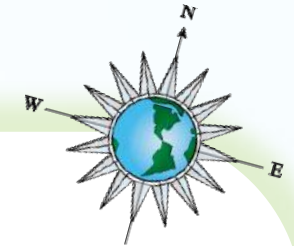
会社紹介

- コーポレートステートメント



2022年3月期 連結業績概要

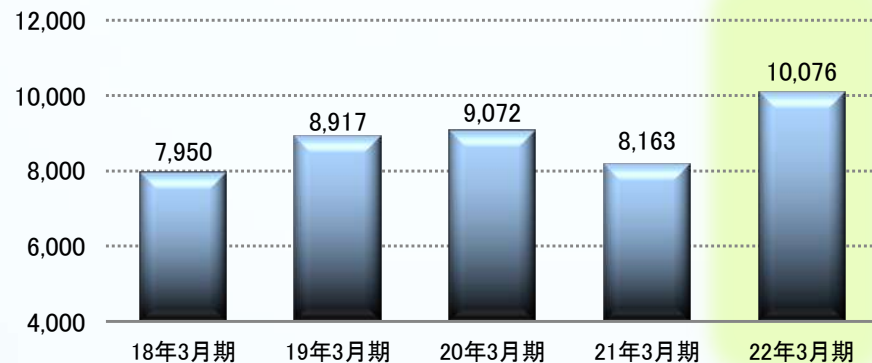
2022年3月期 連結業績概要



● 決算サマリー

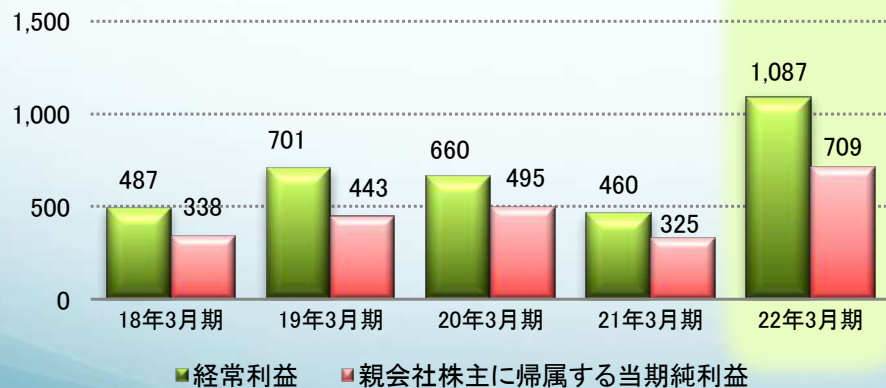
- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益

売上高



単位: 百万円

経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益



経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、世界各国でのカーボンニュートラル実現に向けた取り組み等により、自動車関連市場や半導体関連市場、また、5G(第5世代移動通信システム)関連市場など、グローバルで需要の回復が進んでおります。

このような状況の中、当社グループは、新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、営業活動の制約を受けたものの、受注環境は好調に推移しており、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)、サーバー・ICT(情報通信技術)関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、感染拡大防止に対応したオンライン商談やWebを活用した販売促進活動等を進めるなど売上拡大に努めると共に、部品調達活動、生産活動にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、米国、中国を中心に海外売上高の大幅な増収により、100億7千6百万円(前年同期は81億6千3百万円)となりました。損益面におきましては、部品調達価格等仕入コストの上昇や売上高の増加により輸出輸送費等販売費並びに研究開発費の増加はあったものの、営業利益10億3千3百万円(前年同期は4億1千8百万円の営業利益)、経常利益10億8千7百万円(前年同期は4億6千万円の経常利益)、親会社株主に帰属する当期純利益7億9百万円(前年同期は3億2千5百万円の親会社株主に帰属する当期純利益)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当連結会計年度の売上高は1億3千4百万円、営業利益は1千5百万円それぞれ減少しております。また、経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響額は僅少であります。

2022年3月期 連結業績概要

● 損益計算書

	21年/3月期		22年/3月期		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	8,163		10,076			
売上原価	3,969	48.6	5,033	50.0		
売上総利益	4,193	51.4	5,042	50.0		
販売費及び一般管理費	3,775	46.3	4,009	39.8		
営業利益	418	5.1	1,033	10.3		
営業外収益	73	0.9	82	0.8		
営業外費用	31	0.4	28	0.3		
経常利益	460	5.6	1,087	10.8		
税金等調整前当期純利益	460	5.6	1,087	10.8		
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	134	1.7	378	3.8		
親会社株主に帰属する 当期純利益	325	4.0	709	7.0		
1株当たり当期純利益	39.18円		85.13円			

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用し、当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減額及び増減率は記載しておりません。

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

2022年3月期 連結業績概要

● 売上高と経常利益

- 売上高: 10,076百万円
【前年同期 8,163百万円】
- 経常利益: 1,087百万円
【前年同期 460百万円】
- 親会社株主に帰属する
当期純利益: 709百万円
【前年同期 325百万円】

Point



新型コロナウイルス感染再拡大の影響により、営業活動の制約を受けたものの、受注環境は好調に推移しており、グローバル需要を捉えるべく、重点市場である航空宇宙、電池、自動車のCASE(コネクテッド、自動運転、シェアリング、電動化)、サーバー・ICT(情報通信技術)関連市場へ顧客ニーズに合わせたソリューション提案営業を積極的に展開し、感染拡大防止に対応したオンライン商談やWebを活用した販売促進活動等を進めるなど売上拡大に努めると共に、部品調達活動、生産活動にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、米国、中国を中心に海外売上高の大幅な増収により、100億7千6百万円(前年同期は81億6千3百万円)となりました。

損益面におきましては、部品調達価格等仕入コストの上昇や売上高の増加により輸出輸送費等販売費並びに研究開発費の増加はあったものの、営業利益10億3千3百万円(前年同期は4億1千8百万円の営業利益)、経常利益10億8千7百万円(前年同期は4億6千万円の経常利益)、親会社株主に帰属する当期純利益7億9百万円(前年同期は3億2千5百万円の親会社株主に帰属する当期純利益)となりました。

なお、収益認識会計基準等の適用により、当連結会計年度の売上高は1億3千4百万円、営業利益は1千5百万円それぞれ減少しております。また、経常利益及び税金等調整前当期純利益への影響額は僅少であります。



単位: 百万円



2022年3月期 連結業績概要

● 製品群別売上概況

- 電子計測器: 2,369百万円
【前年同期 1,701 百万円】
- 電源機器: 7,285百万円
【前年同期 6,125 百万円】
- その他: 420百万円
【前年同期 336百万円】

Point



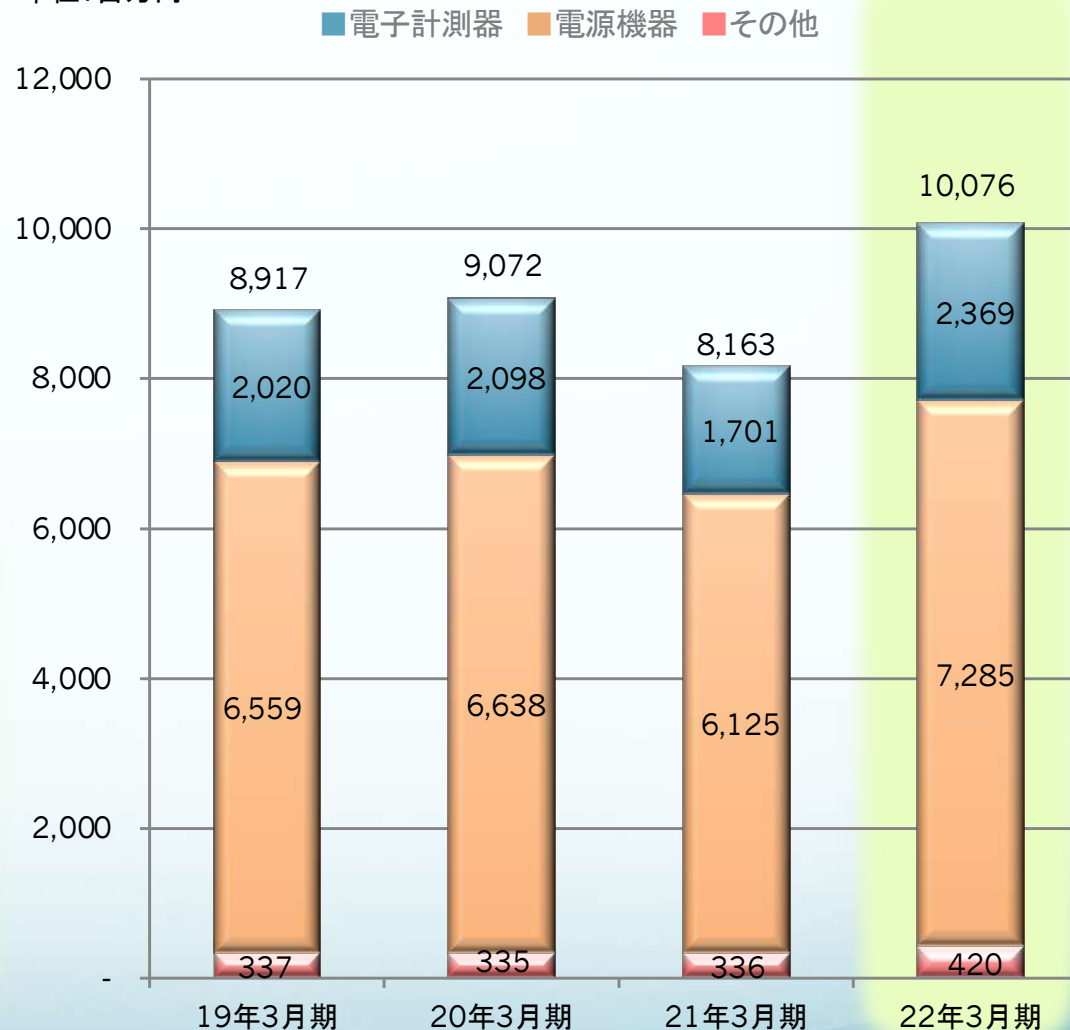
《電子計測器群》

航空機器用電子機器の測定器に動きがありました。また、安全関連試験機器は、EV(電気自動車)用バッテリーの耐電圧・絶縁試験抵抗試験器として電池関連市場向けに大きく伸ばいたしました。

《電源機器群》

直流電源は、宇宙産業市場、次世代車載関連市場、半導体関連市場、5G関連市場及び電子部品市場への評価試験や製造設備用として大きく伸ばいたしました。交流電源は、次世代車載関連市場、ICT関連市場やエネルギー関連市場への評価試験や製造設備用として大きく伸ばいたしました。電子負荷装置は、次世代車載関連市場への評価試験用として大きく伸ばいたしました。

単位: 百万円



2022年3月期 連結業績概要

● 製品群別売上高構成比

- 電子計測器 : 23.5%
【前年同期 20.9%】
- 電源機器 : 72.3%
【前年同期 75.0%】
- その他 : 4.2%
【前年同期 4.1%】

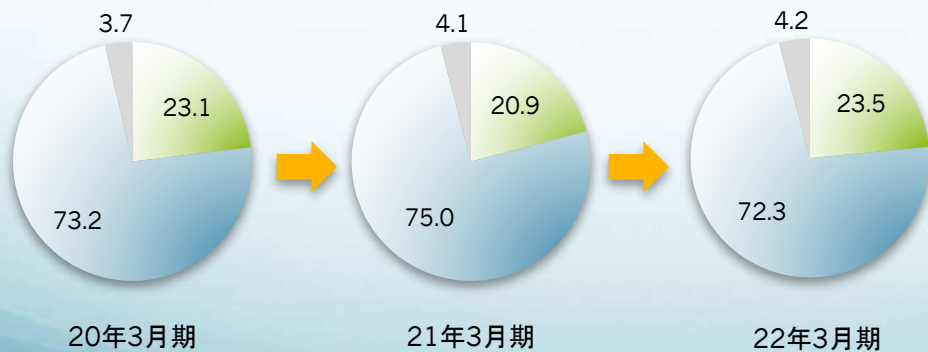
Point



電子計測器の売上の伸長により、電子計測器の構成比率が上昇しました。

- 電子計測器
- 電源機器
- その他

単位：%



● 製品群別売上総利益率

- 電子計測器 : 48.7%
【前年同期 49.1%】
- 電源機器 : 49.0%
【前年同期 51.3%】

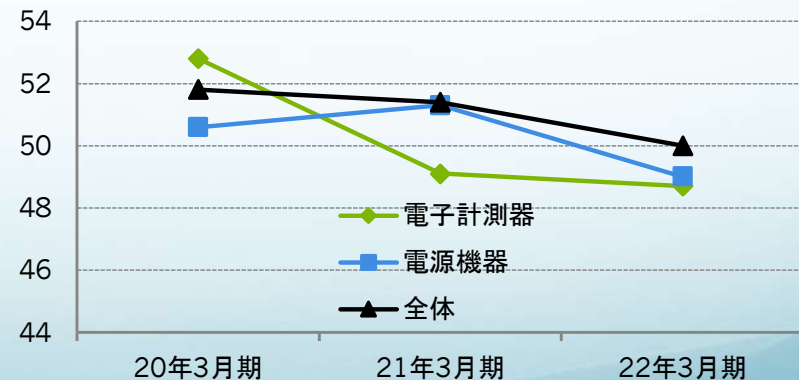
売上総利益率 : 50.0%
【前年同期 51.4%】

Point



部品調達価格等仕入れコストの上昇により売上総利益率が減少しました。

単位：%



2022年3月期 連結業績概要

● 海外売上高

- 北米: 700百万円
【前年同期 477百万円】
- 欧州: 455百万円
【前年同期 304百万円】
- 中国: 2,104百万円
【前年同期 1,164百万円】
- その他アジア: 1,238百万円
【前年同期 797百万円】
- その他の地域: 17百万円
【前年同期 13百万円】

海外販売高合計: 4,516百万円
【前年同期 2,757百万円】

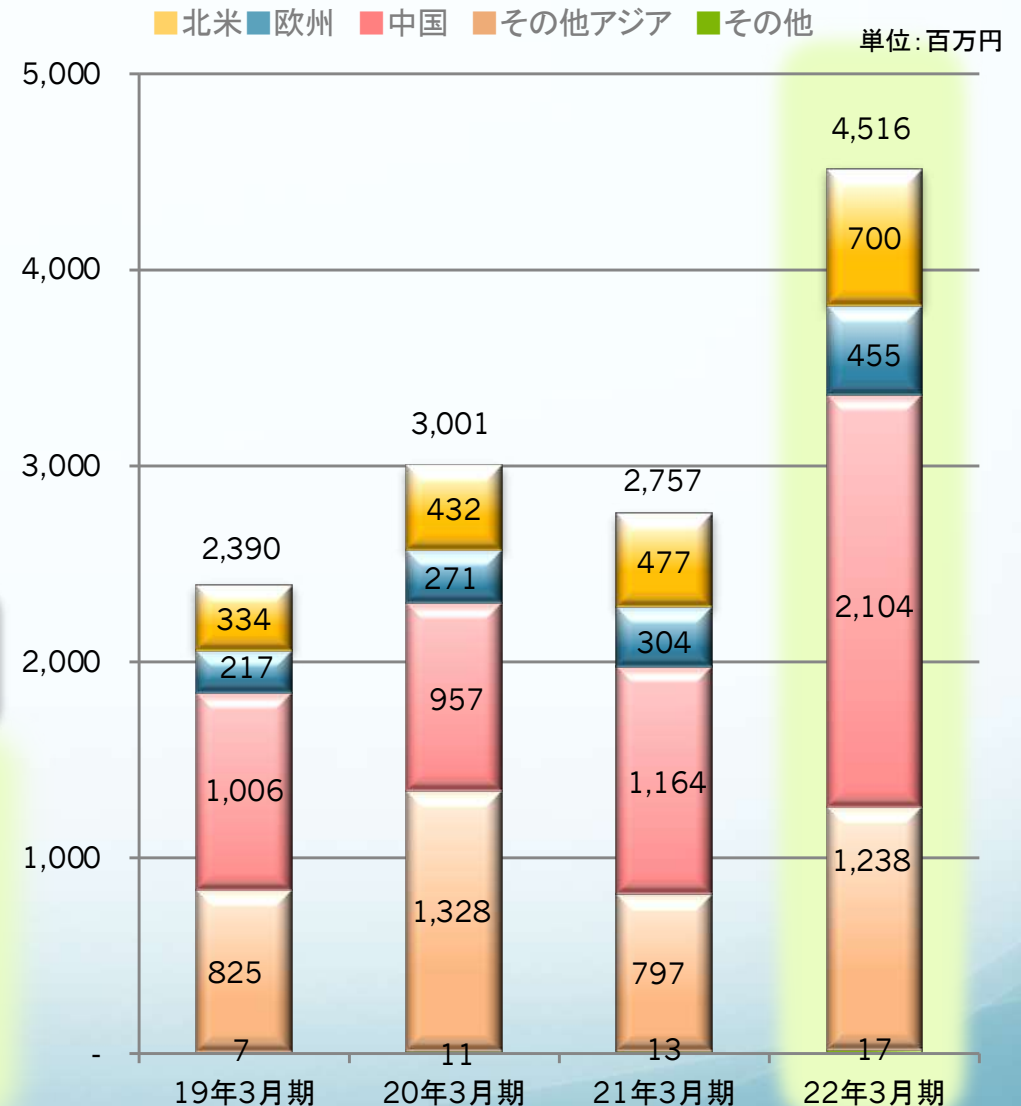
Point



米国では、宇宙産業市場や半導体関連市場への直流電源が好調に推移いたしました。また、グリーンエネルギー政策により需要が拡大しているエネルギー関連市場への交流電源及び設備投資が好調な半導体関連市場及び宇宙産業市場への電子負荷装置が大きく伸びました。

欧州では、全般的に動きがあり、特にパワー半導体関連市場への直流電源や車載関連市場への電子負荷装置に動きがありました。

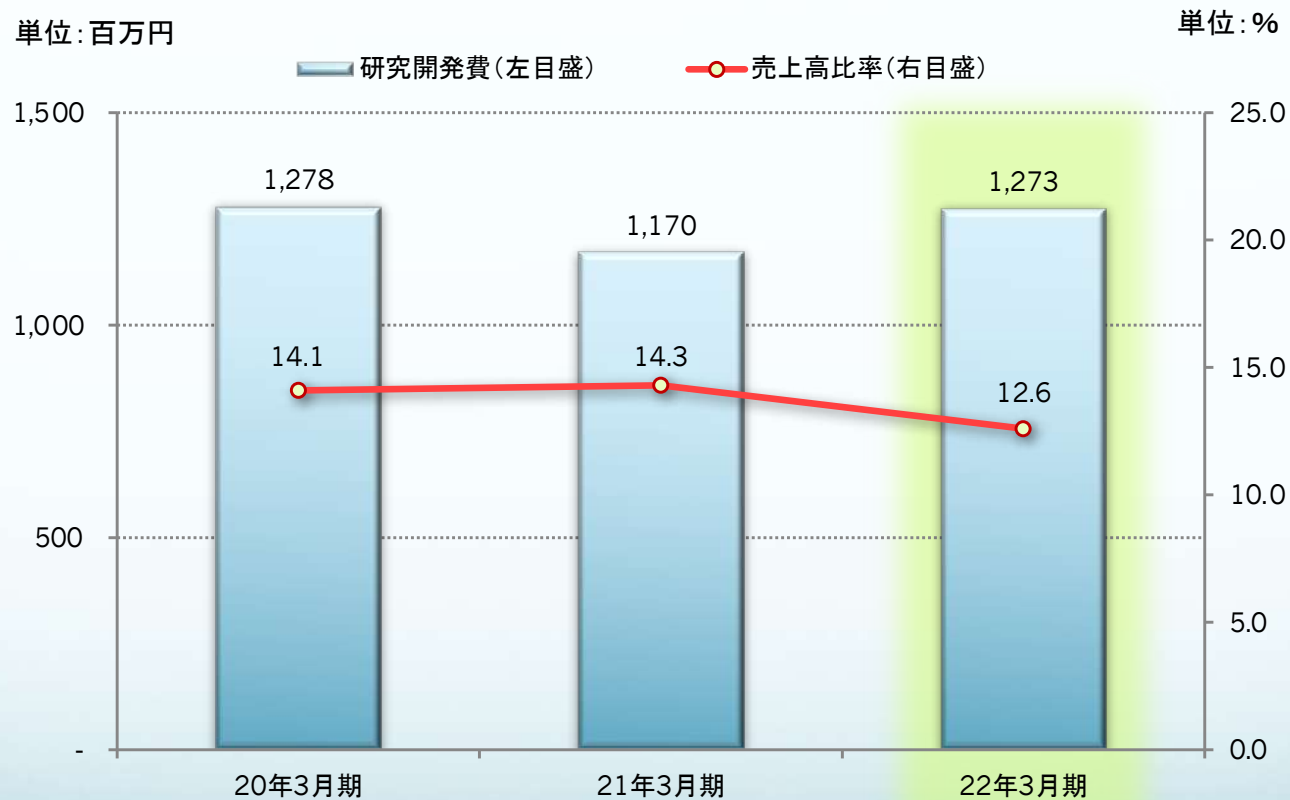
アジアにおいては、一部地域ではロックダウンによる活動制限がありましたが、全般的に投資活動は活発であり、その内、中国では、自動車のEV化が加速する中、電池関連市場への安全関連試験機器、5G関連需要による半導体関連市場や車載関連市場への直流電源がそれぞれ大きく伸びました。一方、韓国では、車載関連市場への交流電源及び電子負荷装置が好調に推移し、東南アジアでは、電子部品市場への安全関連試験機器、ICT関連市場への交流電源及び車載関連市場への電子負荷装置が好調に推移いたしました。



2022年3月期 連結業績概要

● 研究開発投資 (対売上高比率)

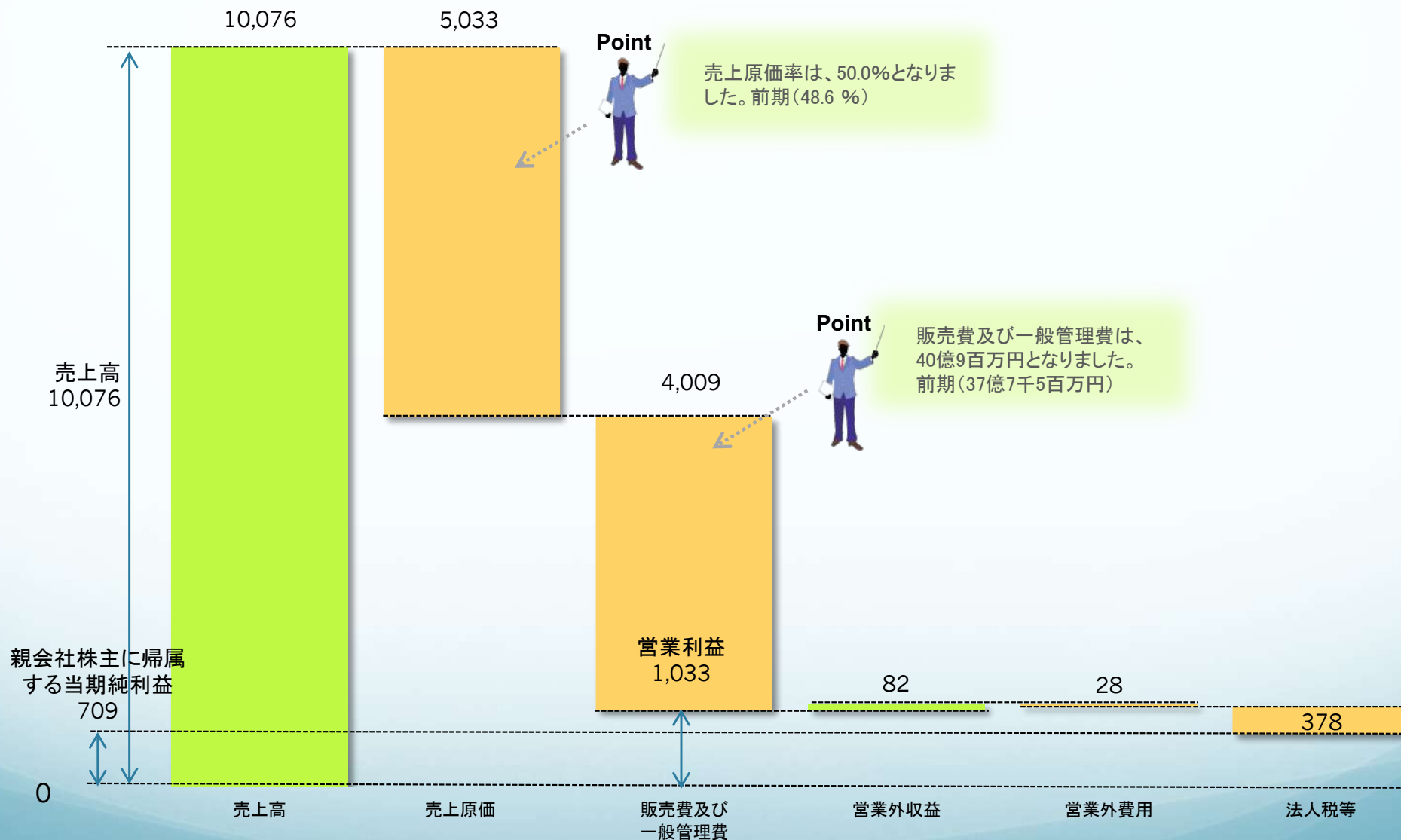
- 1,273百万円 (12.6%)
【前年同期 1,170百万円 (14.3%)】



2022年3月期 連結業績概要

● 損益の概況

(百万円)



2022年3月期 連結業績概要

● 貸借対照表

単位:百万円

【資産の部】	21/3期	22/3期	増減
流動資産合計	7,019	8,186	
固定資産合計	4,967	5,264	
資産合計	11,987	13,451	
【負債の部】	21/3期	22/3期	
流動負債合計	1,439	1,960	
固定負債合計	557	573	
負債合計	1,997	2,534	
【純資産の部】	21/3期	22/3期	
資本金	2,201	2,201	
資本・利益剰余金	7,977	8,531	
自己株式	△789	△774	
その他の包括利益累計額合計	599	959	
純資産合計	9,989	10,917	

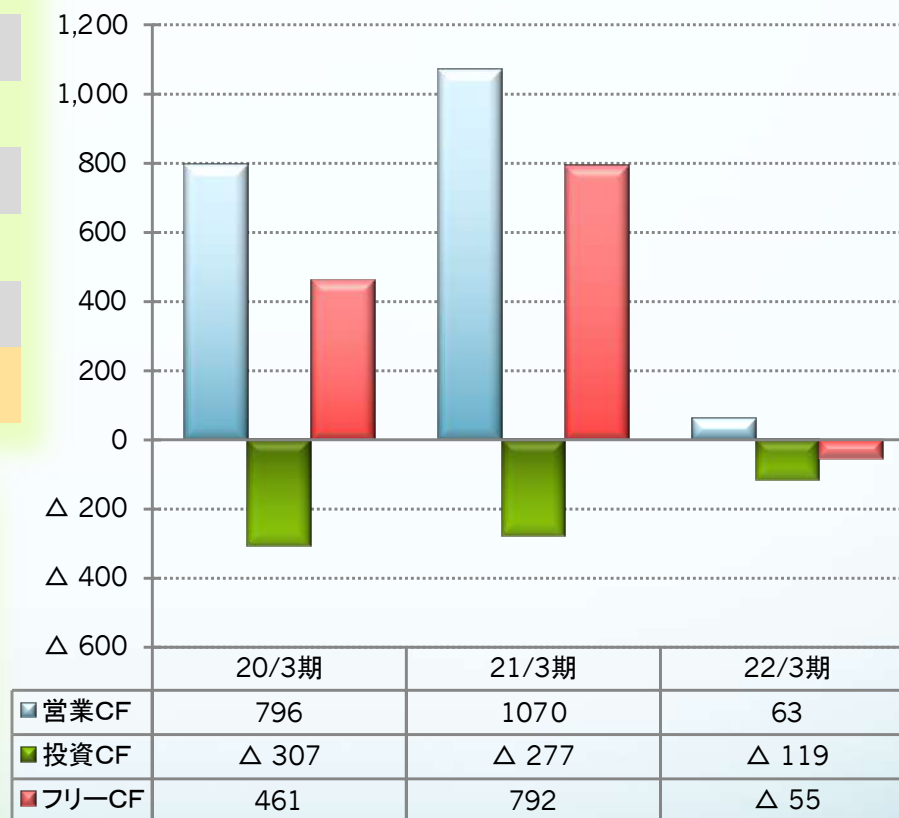
2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用し、当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減額は記載しておりません。

2022年3月期 連結業績概要

● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位:百万円 20年/3月期 21年/3月期 22年/3月期 単位:百万円

営業活動によるキャッシュ・フロー	796	1,070	63
投資活動によるキャッシュ・フロー	△307	△277	△119
財務活動によるキャッシュ・フロー	△193	△195	△170
現金及び現金同等物の増減額	257	623	△178
現金及び現金同等物の期首残高	2,206	2,464	3,088
現金及び現金同等物の期末残高	2,464	3,088	2,909



Point



営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産の増加等による資金の減少が、税金等調整前当期純利益の計上等による資金の増加を上回り、6千3百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等による資金の減少が、有価証券の売却等による資金の増加を上回り、1億1千9百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、1億7千万円の支出となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、1億7千8百万円減少し、29億9百万円となりました。

2023年3月期 連結業績予想

2023年3月期 連結業績予想

	22年/3月期	23年/3月期		
	通期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円)	前期比増減率(%)
売上高	10,076	10,300	223	2.2
営業利益	1,033	930	△103	△10.0
経常利益	1,087	1,000	△87	△8.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	709	680	△29	△4.1

	22年/3月期	23年/3月期	
	通期実績(円)	通期予想(円)	前期比増減額(円)
1株当たり 配当金	30.00	30.00	0

本資料における注意事項

本資料は、2022年3月期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2022年6月17日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水電子工業株式会社 総務部 IR担当

TEL:045(482)6912 E-mail:ir@kikusui.co.jp URL:<https://www.kikusui.co.jp/>